

令和5年度大府市犯罪のないまちづくり推進会議 議事録

開催日時	令和6年2月28日(水) 午前9時57分～午前11時10分
開催場所	大府市役所 5階 全員協議会室
出席委員	<p>会長：岡村秀人：大府市長</p> <p>委員：田中賢：日本大学教授、中山知乃：東海警察署生活安全課長、森下明雄：東海警察署大府幹部交番所長、伴浩人：大府市小中学校校長会代表、花井静枝：大府市老人クラブ連合会代表、芳賀鉄男：東海大府少年補導委員代表、石原佳子：東海大府事業所防犯協会大府支部代表、深谷多恵子：大府商工会議所代表、神谷まち子：大府市地域婦人団体連絡協議会代表、山本裕子：自主防犯ボランティア代表、中庄とみえ：公募委員、宮腰理加：学生代表</p>
欠席委員	高橋枝里：大府市小中学校PTA連絡協議会代表、竹内清道：大規模小売店代表
事務局	近藤真一：市民協働部長、近藤宏幸：危機管理課長、小原教寛：危機管理課生活安全係長、吉村隆汰：危機管理課生活安全係主任、津坂拓男：危機管理課生活安全係地域安全専門員
傍聴人	なし
次 第	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 報告事項  (1) 大府市の犯罪発生状況について  東海警察署生活安全課長 中山 知乃 氏  (2) 令和5年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について</p> <p>3 協議事項  令和6年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書(案)について</p> <p>4 防犯対策事例の紹介  日本大学 教授 田中 賢 氏</p>

## 1 会長あいさつ

市内の令和5年の犯罪発生状況は、前年と比較して大幅に増加しており、大変憂慮すべき状態にある。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による行動制限が緩和されたことにより、人々の活動が非常に活発になったことが影響していると考えている。

本市としても、1件でも犯罪を減らすために、本年度から防犯対策装置購入費の補助制度を実施している。この補助制度は、市民の皆様や自治区等の自主防犯団体に活用していただけるように、例えば、特殊詐欺防止用電話機器や侵入盗を防止する防犯砂利、自動車盗難を防止するタイヤロックなど、様々なメニューを用意している。この補助制度が、非常に好評であり、12月議会において、予算を増額して対応している。今年度は、3月末まで実施し、令和6年度も事業の実施を予定しているため、是非とも家庭や団体等で活用していただきたい。

本日の議題は、今年度の事業実施状況と、「第4次大府市犯罪のないまちづくり基本計画」に基づく、令和6年度の事業計画案を提示させていただくため、委員の皆さんにご審議いただきたい。

## 2 報告事項

### (1) 大府市の犯罪発生状況について

東海警察署生活安全課長 中山 知乃 氏

令和5年中の大府市内における刑法犯認知件数は433件、前年対比+70件で、愛知県内全体でも同様に増加傾向にある。県内平均で約1.5割の増加、大府市は約2割の増加で、県平均との比較では、やや増加している。一方で、犯罪率に着目すると、県内69自治体の中で50番目と、県内でも下の方ではあるが、認知件数は70件増加しているため、本年も増加が懸念される。突出して増加している犯罪に着目すると、侵入盗の中では空き巣が多発した。令和4年の認知件数が2件と異常に少なかったこともあるが、令和5年中は13件発生しており、被害状況を見るとマンションや一般民家の窓ガラスを割って侵入するケースが最も多く、約3割強で、無施錠の場所から侵入されて被害に遭うケースが2番目に多い。様々な場所で講話をさせていただく機会があるが、「今日は鍵を掛けてきましたか」と聞くと、ほぼ全員が鍵を掛けてきたと言うが、「換気窓や小さな窓、勝手口の扉など全て鍵を閉めてきた自信がありますか」と聞くと、3割くらい自信がない人がいる。犯人は必ず下見をして、留守の時間帯等を徹底的に調べて泥棒に入るため、注意して欲しい。是非とも、大府市の補助制度を活用して、補助錠を付ける等の対策をしていただいて、被害を減らしていただいたい。

また、自転車盗も非常に増えており、令和5年は、大府市内で自転車が107台盗まれた。令和4年と比較すると60台増えており、駅での被害が最も多い。駅周辺で実態調査をすると、必ず無施錠の自転車が数台あり、犯行はそのような無施錠の自転車を狙い、目的地までの移動手段として盗むという事例が増えている。これから新年度になるため、新たに自転車を購入する人が身近にいたら、自転車から少しの時間でも離れる場合は、必ず鍵かけをするよう声掛けをお願いする。

次に、大きな問題となっている特殊詐欺については、令和5年は23件発生しており、被害金額は、約5,165万円であった。前年対比+14件で、被害金額は、約3,700万円の大幅増加となっている。被害者の年代は、27歳から89歳で、最も多く被害を受けている年代は、80歳代の女性であった。若い人の被害の事例では、パソコン等がウイルスに感染してしまい、解除の手数料として、コンビニで高額な電子マネーを購入させられ、騙し取られる手口であった。高齢者については、新聞やニュースで何度も聞いたことがあると思われるが、息子や孫を騙るオレオレ詐欺、警察官や百貨店を騙り、「キャッシュカードが不正に利用されている」等と言って、キャッシュカードをすりかえるもの等の被害が多発している。

このように皆さんが知っている手口で、あと少しで被害を食い止められたという事例もあるため、周りの皆さんと話題に出していただき、1件でも被害を減らせるよう努めていただきたい。

### (2) 令和5年度大府市犯罪のないまちづくり事業進捗状況について 事務局より概要を説明。

意見無し。

## 3 協議事項

令和6年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画書(案)について  
事務局から概要を説明。

(委員) 学校などにおいて、年齢に応じた規範意識の向上を目的とした取組と記載され

- ているが、どのような人が指導するか。
- (事務局) 学校などでの道徳教育が主となるため、指導は先生となる。防犯講話などは、学校から依頼があれば、市が窓口となって実施するが、基本的には学校教育の一環となる。
- (委員) 若者向けの防犯講話の実施と記載されているが、高校などに出向いて行うものか、こちらも学校の先生が行うものか。
- (事務局) 消費者トラブルに遭わないよう、直接学校に出向いて出前講座のような形式で実施している。また、講座だけではなく、チラシの配布などでも注意喚起をしている。

#### 4 防犯対策事例の紹介

日本大学 教授 田中 賢 氏

##### (1) 防犯まちづくりの事例

国土交通省が発表したものであるが、防犯まちづくりの事例には大きく3つあり、①防犯に配慮した環境整備の事例、②コミュニティとエリアマネジメント事例、③地域特有の事例といったものが紹介されている。先ほどの事業報告でもあったが、日頃皆さんが取り組まれている活動や令和6年度事業計画の内容と合致する部分が多々あるため、非常に良い内容だと感じた。一つだけ注意していただきたいことは、手段を目標と取り違えないよう、何のためにこの取組を行っているのかを意識しなくてはいけない。例えば、「防犯カメラをいくつ設置した」ではなく、「見守りの機能を高めることができ、地域の安全が確保できた」となるように考えていただきたい。

2013年に、千葉県が「防犯ボックス」を設置したことで、侵入盗が6割減になった事例があった。これは、プレハブで作られたもので、警察官0Bが午後2時から午後10時まで常駐し、見せる活動として防犯効果を高める取組であり、他にも、千葉県柏市では「低未利用地」を地域の庭とする「カシニワ制度」を行っており、地域を管理する意識が醸成されることで、防犯力も高める取組がある。

それぞれの取組を見ていくと非常に良い取組であるが、長く続かないことが多々あるため、実施主体が息切れして活動が沈静化をしないよう、息の長い取組を考えていただきたい。

##### (2) 子どもの不良のプロセスについて

こどもの社会の躓きは、大人になってから犯罪に結びつくような重い非行等や、不良行為などの問題行動につながる恐れがある。こどもにとって「父親」や「母親」、又はそれに代わる「愛情を持って、こども支える強い存在」の有無が、大きな分かれ道となる。この存在が居ないことで、例えば、学業の成績が不振になり、勉強に対して前向きでなくなることから始まり、不良少年同士が関わりあうことで、授業や学校をサボることなどの不良行為や非行を経験する。不本意な進学や就業をすることで、離職などをし、最終的に犯罪に手を染めてしまうことに繋がる。

少年時代に非行歴がある人ほど、犯罪者になる可能性が高いため、こどもが不良化しないよう、保護者から愛情を受けることが重要であるが、「見守り」も重要であり、見守りは本日お集まりいただいている委員の皆さんのような地域の方や警察が行うものであり、「ながら防犯」が非常に重要である。「ながら防犯」は、何かをしながら見守り活動を行うことで、例えば、配達や犬の散歩をしながら見守り活動を行うことである。本日は学生代表の委員もいるが、ぜひ学生の部活動でランニングする際に、襷を掛けながらランニングするなどの「ながら防犯」に協力していただけたら非常に良いと思う。

この「ながら防犯」にも欠点があり、欠点を実証する「非注意性盲目」についての実験がある。この実験は、白と黒の3人ずつ2チームで、バスケットボールを2個使って行うもので、白チームの人は何回パスを出したかを動画で見て数えるものである。実験が行われている間にゴリラの着ぐるみを着た人が通過するが、半数以上の人はゴリラが通過したことに気が付かなかった。これは、パスだけに注意しているため、大事なところはしっかりとみているが、それ以外のところには注意が向いてことを表している。つまり、「ながら防犯」では、配達、散歩などをメインで行っており、防犯をメインで行っていないため、見守りが甘くなってしまうという欠点がある。ただ、そういったことも含めて、策で水を救うのを、何重にも重ねることで、どこかで必ず引っ掛かるようにすることが目的であるため、「ながら防犯」は非常に重要であると感じている。

### (3) ヤングケアラーの支援について

ヤングケアラーは、本来大人が担うと想定されている、家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものことで、中学2年生の17人に1人がヤングケアラーと言われており、ヤングケアラーの支援は、大府市が非常に積極的に取り組んでいる事業である。

ヤングケアラーの支援の問題は、ヤングケアラー本人のケアだけに収まらず、家族のケア、相談しやすい環境の整備など、多岐にわたるが、ヤングケアラー本人や家族が支援を求めている場合もあり、抱えている問題も非常に複雑化しているため、特定のサービスを確立することが難しい現状にある。行政としてできることは、こどもが相談したいと思った時に、人目を気にして、相談しづらい環境にあると良くないため、保健室や職員室など、如何にも相談に行くような場所ではなく、目立たない形の相談窓口が用意されていたら良いと思う。

大府市においては、事業を展開していく中で、ただ数字だけを追うのではなく、住民の意見を吸い上げつつ、大学と連携するなど若い力をうまく活用し、もっと面白い活動をしてほしい。例えば、先ほど話題にした、こどもの見守り活動からスタートすることが良いと思う。

(委員) ヤングケアラーを孤立させないための取組として、ピアサポーターを育成するとあるが、ピアサポーターを育成するための人がいるのか。

(委員) ピアサポーターは、愛知県の取組で育成しようとしているが、実態としては、過去にヤングケアラーであったことを公言することとなるため、ピアサポーターになる人が少ないという課題を抱えている。そのため、そのような方がいいれば、知恵を共有していく形になる。

その他には、年齢が近い大学生等が社会福祉や精神保健福祉を学び、サポーターになっていただくことも良いと思う。このピアサポーターを育成する取組は、非常に難しいことであり、これからの課題であると思う。ピアサポーター育成の仕組みを確立できれば素晴らしいと思う。

以上